

# 東日本の拠点、 中央の大坂・京都 西の広島、東の神指



酒槽



神指城の築城時には、人足に対し毎晩若松から酒を船で運び飲ませたことから酒槽（さかふね）の名が残っています。

また、神指城の石垣を運んだ道を「石引道」と呼びます。湯川には、石垣の石を運ぶため柳の木で橋を架けたことから「柳橋」の名が付けられています。

神指城は、豊臣政権の城です。東日本の拠点、経済都市として慶長5年（1600）に直江兼続が総監督のもとに築城されています。アミの部分（堀）が現在も残る部分でも本丸のほとんどと二ノ丸の四隅が残されています。

「神指城実測図」『小田山城』2005年  
石田明夫 会津若松市教育委員会より  
文責・実測・作図・写真 石田明夫